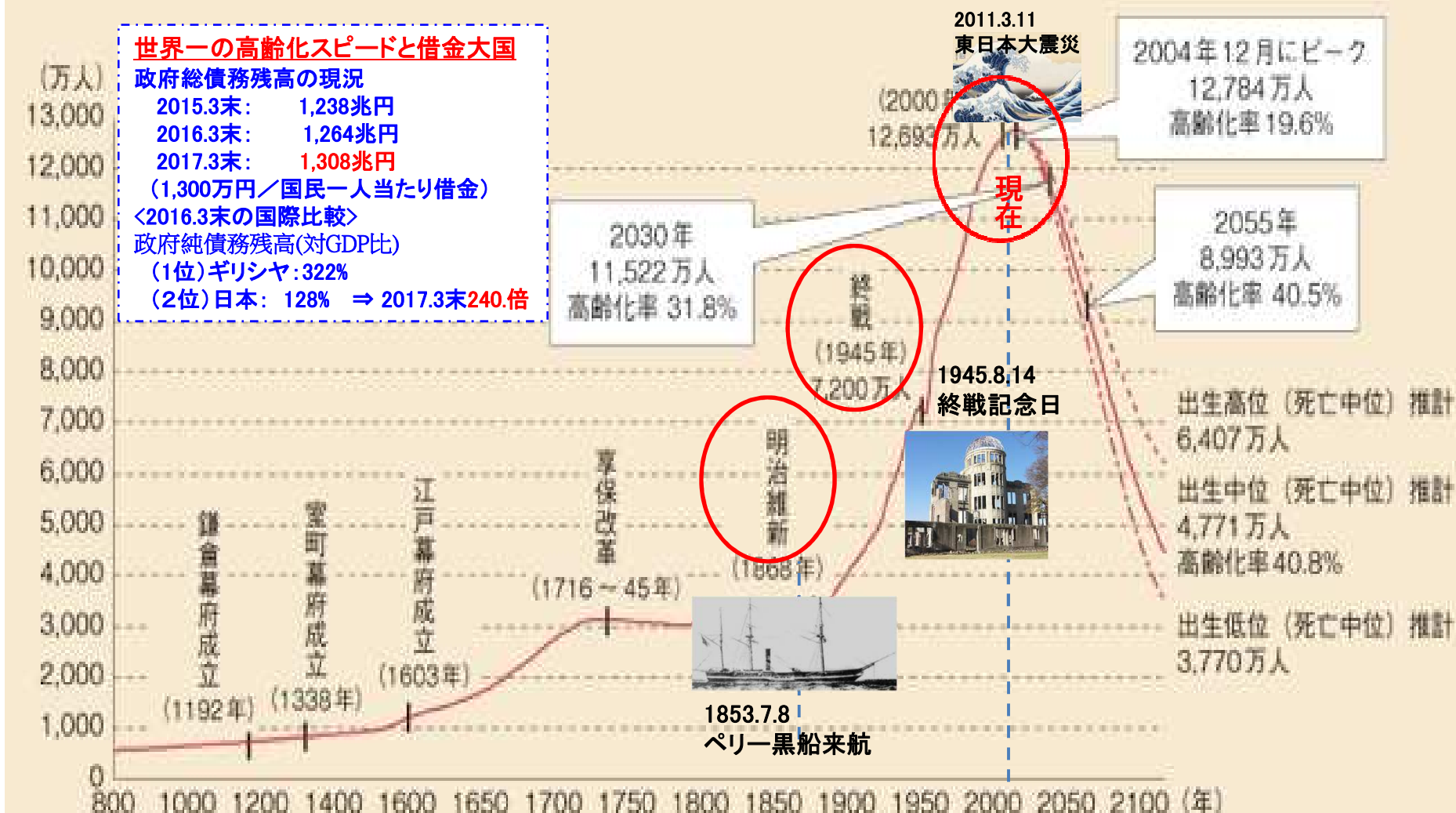


近世日本の民族三大転換期[No.7]～新ビジネスモデル造りを目指して～

現代は、明治維新と第二次世界大戦敗戦に次ぐ、日本民族の三大転換期と言えます。
 私たちの子供たちに残すべき日本のあるべき姿造りに、一緒に汗して考働しませんか？

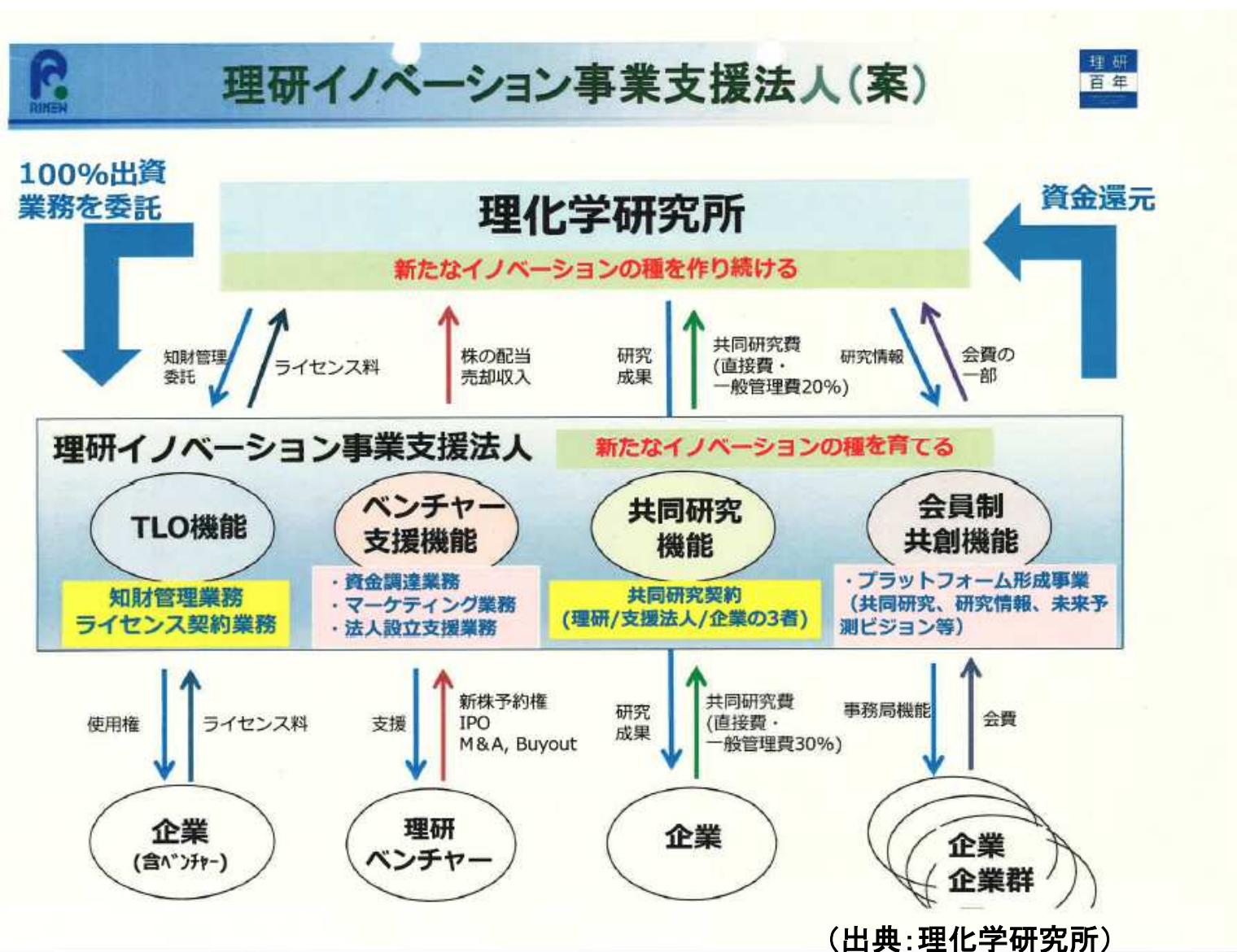
(文責)川越テクノサポート
 技術経営コンサルタント
 2018.2.1作成 大崎俊彦



資料) 総務省「国勢調査」、「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (2006年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」(1974年)より国土交通省作成

(出典:国土交通省)に加筆

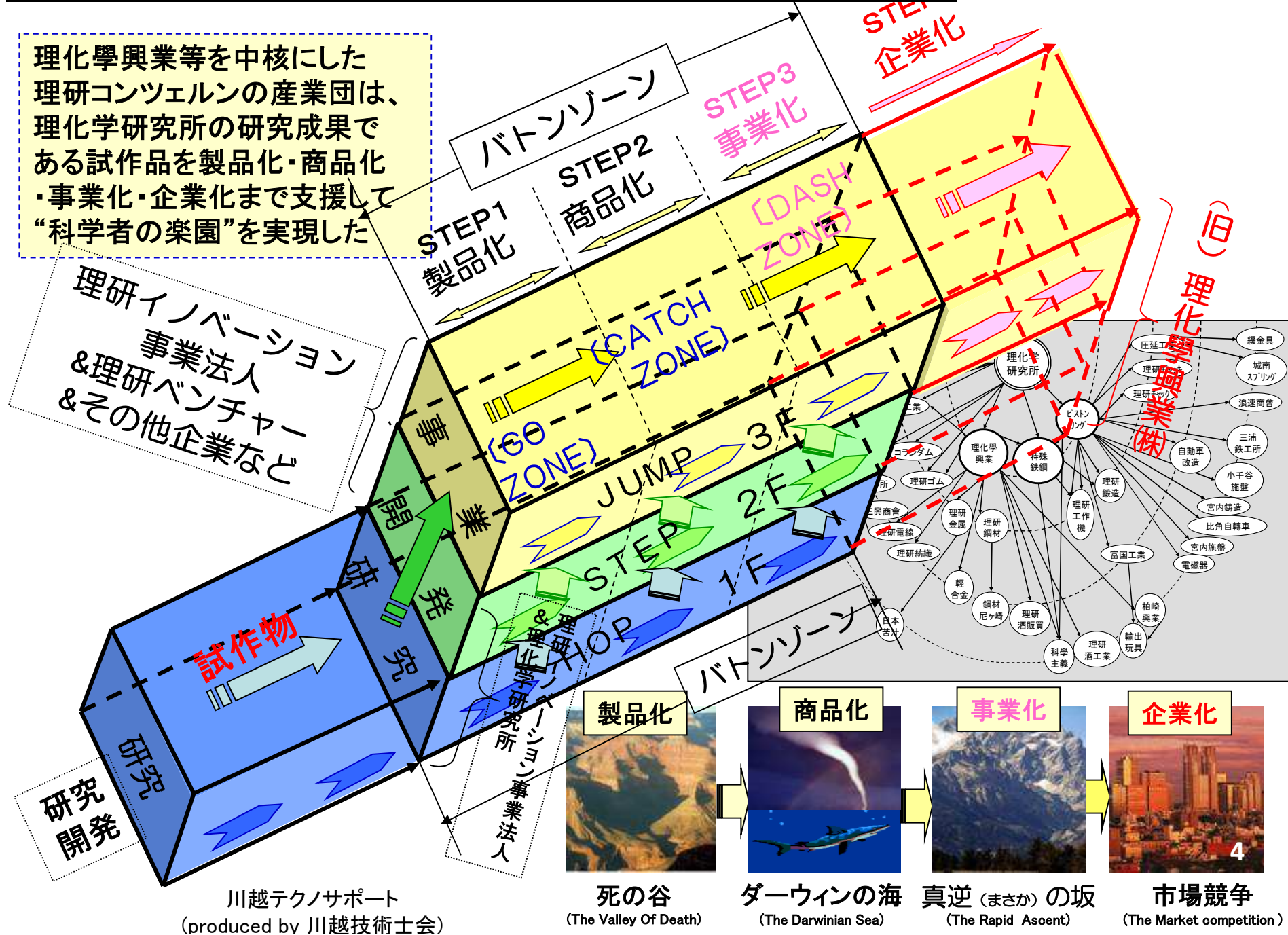
特定国立研究開発法人理化学研究所の「イノベーション事業法人」設立構想



理研のバトンゾーン:
死の谷⇒
ダーウィンの海⇒
真逆の坂をサポート



現行バトンゾーン制度の概念図と理研コンツェルンの位置付け



新たな多様体の経営組織の構築へ向けて

ダイバーシティ・マネジメント (Diversity Management)

もともとは、アメリカにおいて社会的マイノリティーや女性の積極的な採用、就業機会拡大を意図して使われた言葉であった。現在は、多様化する市場要求に応じ、性別や人種や信仰の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、多様な人材を積極的に広く活用することで、生産性を高めようとするマネジメントをいう。

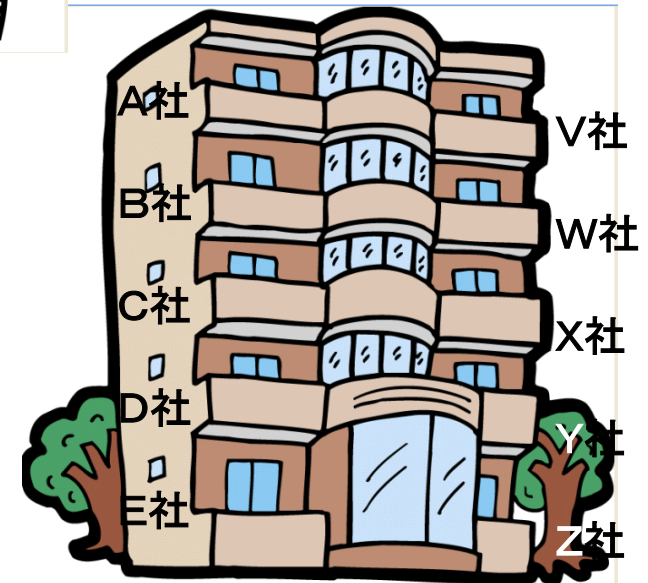
従ってダイバーシティ・マネジメント(Diversity Management)とは、個人や集団間に存在する様々な違い、すなわち「多様性」を競争優位の鍵にして、その優位性を活かす企業風土や文化や制度、プログラムプラクティスなど組織全体を変革するマネジメントアプローチのことである。

従来縦割り組織の企業がダイバーシティを重視する背景には、この有能な人材の発掘、斬新なアイデアの喚起、社会の多様なニーズへの対応といった多様体新ビジネスモデル構築の狙いがある。

大企業成長戦略に対応したベンチャー企業(ベンチャー村)の技術売却戦術



インキュベーションプラザ
(ベンチャー村)



多様体の組織構築に、ホロニック・マネジメントの導入を目指して

ホロニック・マネジメント (Holononic Management)

ホロン(holon)という言葉は、イギリスの小説家アーサー・ケストラーの造語で、ギリシャ語のホロス(holos:全体)とオン(on:接尾語で部分や個)の合成語である。生物は個々の細胞が自主的に活動して独自の機能を発揮する一方で、そうした個が調和して全体を構成する。これを企業組織のあり方にあてはめたもの。ホロンは「全体子」と訳され、生命科学の領域では「個と全体の有機的調和」を意味している。このホロニック的仕組みを企業経営の中に組み込み、激しくなる経営環境変化に適合できる企業にしようとするのが、ホロニック・マネジメントである。

ホロニック・マネジメントは、スポーツのサッカーの如く、ボールを持つ一人のチーム構成員に対して、残りのチーム構成員が全体を考え、その戦略的ポジションに走り込んで勝利をつかむように、「企業の各構成員が、自律的に問題解決や事業改革に取り組み、それが全体として望ましい調和の下に相乗効果を発揮し、企業ドメインの実現に向けて統合され、収斂する状態」を目指すもの。

ホロニック・マネジメントの基本は、以下の5つである。

1. 自立メカニズムをビルドインする
2. 個の業績管理を、みずから徹底する
3. 異質な人材の有能さを相互理解し多様な能力評価基準を確立する
4. 柔軟な流動的組織編成が実践できる仕組み造り
5. 個を統合する全体組織のコンセプトを確立

個々には異質な要素が集合しているにもかかわらず、全体としては調和がとれているさまを、ホロニックという。



理研イノベーション事業法人との理研バトンゾーン伴走プロジェクト構想

日本技術士会 埼玉支部 協働の樹イメージ図



日本技術士会の樹

日本技術士会会員は、市場や中小企業が抱える課題解決に向けて、理化学研究所などの研究機関のベンチャー企業などと協力して、理研ボタンゾーンの伴走者としての機能を果たす仕組みを研究開発し、科学技術にかかる社会的貢献を果たす。

スパイラル的年輪

市場・顧客と
理化学研究所を結ぶ
理研ベンチャー・
和光理研IP入居企業

川越テクノサポート(produced by 川越技術士会)

将来構想



理研イノベーション事業法人との理研バトンゾーン伴走プロジェクト構想

日本技術士会 埼玉支部 **協働の樹**イメージ図



日本技術士会の樹

日本技術士会会員は、市場や中小企業が抱える課題解決に向けて、理化学研究所などの研究機関のベンチャー企業などと協力して、理研バトンゾーンの伴走者としての機能を果たす仕組みを研究開発し、科学技術にかかる社会的貢献を果たす。

スパイラル的年輪

市場、顧客と理化学研究所を結ぶ理研ベンチャー・和光理研IP入居企業

将来構想

